

別冊

[報告第 15 号 寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選
定委員会の答申について]



令和元年7月9日

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫 様

寝屋川市立義務教育諸学校
教科用図書選定委員会
委員長 野呂 泰



令和2年度使用の寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書について（答申）

教育委員会より諮問のありました標記の件について、別添のとおり答申いたします。

記

1. 答申事項

(1) 令和2年度使用寝屋川市立小学校教科用図書の選定に関する事項

令和2年度使用
寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書について

(答申)

寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

1. 発行者（会社名） 4社
2. 東書 11. 学図 17. 教出 38. 光村

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、単元の目標を明示するとともに、単元で身につけた力を他教科や生活にいかすことができるよう取り扱われている。東書では、単元冒頭と単元末に「言葉の力」を示している。学図では、教材全体を見通して読むための手法を各教材で取り扱っている。光村では、「言葉の準備運動」や「対話の練習」の単元を設定し、日常生活に生きる対話の力を育む内容が取り扱われている。

<人権の取扱い>

各社とも、国際理解や国際協調について、適切に取り扱われるとともに、すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。学図、教出、光村では、触れて学ぶことができる点字シートを掲載している。東書では、全ての教材で、行を確認しやすくするために、1行ごとにドットを記載している。教出では、「パラリンアート活動」として、障がいのある人が描いた作品を掲載している。

<内容の程度>

各社とも、児童にとって興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。また、1年生の導入期には、少しずつ言葉にふれられるよう取り扱われている。光村では、鉛筆の持ち方について、具体的な言葉や絵、写真を使い、丁寧に取り扱っている。

<組織・配列>

各社とも、指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。東書では「覚えているかな」を設定し、光村では「これまでの学習」を明示することで、既習事項を意識し、系統的に学習を進めることができるよう組織されている。また、教出、光村では、3年生以上に練習用の短編教材を配置し、説明文の学び方を学ぶことができるよう配列されている。

<創意工夫>

各社とも、言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう、また、多様な学習活動を効果的に行うための言語活動の場面が設定されている。学図では、発達段階に応じた、論理的思考を育む単元を設定している。東書、学図、教出では、児童のノート例を示すことで、思考を「見える化」することができるよう工夫している。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、巻末に、学習の重点や用語を整理したコラムを掲載するとともに、学習に役立つウェブサイトを開設している。東書では、話すこと・聞くことに関する音声教材を、光村では、動画教材を掲載し授業で活用することができるよう工夫している。

令和2年度使用教科書（小学校）答申 種目【書写】

1. 発行者（会社名） 5社
2. 東書 11. 学図 17. 教出 38. 光村 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、毛筆で学習したことを、硬筆にいかせるようになっている。光村では、毛筆で学んだことを硬筆で確かめながら学習する「こう筆のまとめ」が、別ページに集約されている。

<人権の取扱い>

各社とも、全ての児童にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色、教材の児童名、キャラクター、写真などの男女比等に配慮されている。東書では、左手で鉛筆を持った写真を掲載しており、右利きだけでなく、左利きの児童に対する配慮もされている。学図では、利き手を問わず教材文字が隠れずに練習できるように、日文では、利き手に関わらず、手本を見ながら書けるように配慮されている。

<内容の程度>

各社とも、他教科の学習との関連や手紙、原稿用紙など、日常生活と関連させ、書写の知識・技能を習得できるように工夫されている。東書、教出、光村では、1・2年で「書写の体操」として、姿勢や筆記具の持ち方を示し、点画（てんかく）の書き方や文字の形に注意しながら筆順に沿って書くことが取り上げられている。

<組織・配列>

各社とも、他教科と関連する内容が示されている。光村では、小学2年生以降、各題材に「たいせつ」を設け、学習の要点が示されている。

<創意工夫>

各社とも、「行書」について触れられており、中学校への学習の興味付けとなっている。東書では、高学年での、ノートの書き方やポスター発表に向けてのレイアウトなど、構成や配列等が紹介されており、書く目的に合った筆記具を選択して考えさせる工夫がされている。東書、学図、教出、光村では、児童の学びが広がり、深まるように、動画や学習ツールを活用できる工夫がされている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、既習した学習内容についてふり返られるよう工夫されている。教出、学図では、「文字の世界」のコーナーでは、漢字の成り立ちや、生活の中にある文字を取り上げ、子どもたちの興味・関心を促すコラムが掲載されている。光村では、小学校で学習する書写の要素が、6年の「書写ブック」にまとめられている。

1. 発行者（会社名） 3社
2. 東書 17. 教出 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、疑問や問いから学習問題をつくり、調べまとめることを通して、社会生活の理解や技能の定着を図っている。東書や日文では、「見方・考え方」の表示が多数掲載されており、多角的に考えたり、公正に判断したりできるよう取り扱われている。

<人権の取扱い>

各社とも、国際理解の観点から色々な国を取り上げ、日本とのつながりや文化の違い、人々の暮らしについて記述することで、多文化共生の大切さを示している。また、基本的人権を学習するとともに、障害者差別解消法、外国人サポート、少数民族、子どもの権利条約、ハンセン病などを取り扱っている。

<内容の程度>

各社とも、重要語句を本文外に取り上げ強調している。日文では、近畿圏を扱った資料が多く、教材を身近に感じることができる。

<組織・配列>

東書では、扉ページに、前学年で「学んだこと」とその学年で「学ぶこと」がまとめられている。教出では、前学年で「学んだこと」「できるようになったこと」「学び方」と「見方・考え方」の視点がまとめられている。日文では、扉ページで「社会科の学習でたいせつなこと」が示されている。

<創意工夫>

各社とも、多様な表現活動が例示されており、児童の発達段階に応じた配慮がされている。東書では、「本時のめあて」に4つの学習段階が示されている。教出では、各時間の末尾に「次につなげよう」を位置づけている。日文では、課題解決後に生まれた疑問を「さらに考えたい問題」として提示している。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、多様な学びを可能にするためのコーナーを単元の後に配置し、広く深い学習につなげている。また、ウェブサイトでの学習に役立つ情報を見ることができるようになっている。

1. 発行者（会社名） 2社
2. 東書 46. 帝国

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸図が取り扱われている。また、地図帳の使い方や統計資料の活用の仕方、我が国の自然・産業・貿易・歴史・文化、47都道府県の名称と位置、特色などについて理解をするための資料が豊富に取り上げられている。

<人権の取扱い>

各社とも、すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。東書では、北海道のアイヌ語に由来した地名等にふれ、帝国では、世界の国々の言葉で「こんにちは」をイラスト付きで説明する等、国際理解や多様な言語について考えることができる。

<内容の程度>

各社とも、小学校の地理学習・歴史学習に必要な内容を十分に網羅している。また、ほとんどの地方が100万分の1の縮尺で表されており、産業、交通、歴史、環境など各学年の学習内容の情報が豊富に取り上げられている。東書では、地図の見方について、3年の地図学習の導入に使えるよう、鳥瞰図→真上からの地図→地図へと視点を変換させる工夫がされ、帝国では、「地図のやくそく」として、方位や地図記号、距離の求め方がわかりやすく解説されている。

<組織・配列>

各社とも、地図や地図帳に関すること、日本列島広域図、都道府県地図（拡大図を含む）、世界地図、資料や統計、索引の順に構成されている。また、児童が読みやすいようユニバーサルデザインに配慮している。

<創意工夫>

東書では、Dマークがあるページで、地図に関連した内容についてインターネットを活用して学習できる。帝国では、「地図マスターの道」や学習を支援するコンテンツを二次元コードから読み取ることができ、関連するクイズ等にも取り組むことができる。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、外国語活動・外国語科や総合的な学習の時間等、他教科と関連させて地図帳を活用できるよう取り扱われている。東書では、身近な動物や料理等が記載されるなど、工夫されている。帝国では、身近な学校生活や遊びが記載されるなど、工夫されている。

1. 発行者（会社名） 6社

2. 東書 4. 大日本 11. 学図 17. 教出 61. 啓林館 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、学習したことを生活の中でいかすことができるよう取り扱われている。また、基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくように、適切な課題が設定されている。

<人権の取扱い>

各社とも、登場する男女の数や役割等に偏りがないよう、配慮されている。大日本、学図、日文では、外国にルーツがあると思われる児童のイラストが掲載されている。東書では、スロープの角度について、啓林館では、車いすマラソン大会のイラストを、大日本と教出では、数学的に点字の仕組みを紹介している。

<内容の程度>

各社とも、写真、挿絵、図、表などの資料が、発達段階を考慮したものになっている。東書では、1年生の最初の2単元をサイズの大きな分冊にしている。啓林館では、透明の分度器がついており、活用しやすくなっている。

<組織・配列>

各社とも、身近な生活から問題を見つけ、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。また、目次では、それまでに学習した関連単元が明示されている。

<創意工夫>

各社とも、生活場面と関連した問題を扱うなど、単元の導入を工夫している。教出、啓林館では、既習事項を振り返ったり、学習を見通したりできるように、高学年の教科書を上下巻合本化しており、大日本は全学年を上下巻合本化している。学図では、児童が興味を持って読めるように、マンガ形式の導入を用いている。東書、啓林館では、対称な図形が視覚的にわかるように、透明性の高い用紙がつけられている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程を振り返ったり、児童の興味・関心に応じて学習を深め広げたりすることができるよう配慮されている。また、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。

1. 発行者（会社名） 5社

2. 東書 4. 大日本 11. 学図 17. 教出 61. 啓林館

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、問題解決的な学習活動を進められるような内容となっており、巻頭において問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を示している。

<人権の取扱い>

各社とも、男女平等、環境教育などの取扱いや、フォントや文字の大きさ等への配慮が見られる。また安全面についても各社ともに配慮されており、教出では裏表紙に「理科の安全の手引き」を掲載し注意喚起を促し、啓林館では、「注意マーク」に加え、「やけど」マークなど具体的に注意すべき行動について示し、危険が回避できるよう配慮されている。

<内容の程度>

各社とも、重要語句については、本文上で太字にし、巻末でも取り上げられている。また、写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。

<組織・配列>

各社とも、問題解決までの段階を3つ、もしくは4つに分けて進めるよう各単元を構成している。東書、学図、教出、啓林館では、問題解決学習の流れとポイントがわかりやすいように、ページの左側に、問題解決の流れを示している。特に学図では、紙面下部にも問題解決の流れをマークで示し、課題解決のどの段階にいるのかが明確にわかるように配慮されている。

<創意工夫>

各社とも、ものづくりの活動が積極的に取り入れられている。大日本では、他教科との関連を示す工夫がされている。啓林館では、問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方、考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示す配慮がされている。東書では、教科書のサイズをA4版にし、図や字を見やすくしている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、プログラミングを体験できる活動を取り入れているとともに、インターネットやウェブサイトなどを利用した、学習に役立つ情報を提供している。

1. 発行者（会社名） 7社

2. 東書 4. 大日本 11. 学図 17. 教出 38. 光村 61. 啓林館 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や、生活上必要な技能について、適切な内容が取り上げられている。

<人権の取扱い>

各社とも、人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。日文では、巻末の裏表紙に、点字の実物を配置し、児童が直接、触れることができるようにしている。東書では、安全について取り上げているページが多い。

<内容の程度>

各社とも、児童の発達段階を考慮した内容になっている。大日本では、ページの右側に「せいかつことば」が掲載されており、児童の語彙力の向上や言語能力の育成が図られている。啓林館では、単元の導入部分に設定されている「わくわくボックス」の中で、実物大の野菜や果物、昆虫などが紹介され、児童の好奇心を揺さぶり、思いや願いを高める工夫がされている。

<組織・配列>

各社とも、各学年の目標や内容を踏まえた効果的な指導が行われるよう、単元やページが組織・配列されている。啓林館では、単元が思いや願いをもつ「わくわく」、活動や体験をする「いきいき」、伝え合いふり返る「つたえあおう」で構成され、活動や体験を通して学ぶことができるように工夫されている。

<創意工夫>

各社とも、身近な生活に関わる見方・考え方をいかし、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。東書では、見開きの右端に学習のポイントや注意点が掲載されており、実際に活動する前に確認しやすいように工夫されている。大日本では、透明シートや手づくり教材を使い、児童の興味関心をかき立てるような工夫がされている。教出では、単元末に書き込みノートを用意し、児童自身が学習のまとめやふり返りができるように工夫されている。啓林館では、町探検が春と秋に複数回設定されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得が確かなものとなるよう配慮されている。学図では、水や土、石などで遊びながら理科に通じる原体験をつくることができるよう、単元が構成されている。光村では、各単元で学んだことをシールに記入して振り返られるようになっている。

1. 発行者（会社名） 2社
17. 教出 27. 教芸

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、生活や社会と音楽の関わりを感じられるよう、子どもたちが興味を持てる教材を取り上げ、音楽を愛好する心情や豊かな情操を培う内容になっている。教出では、目次にそれぞれの題材においてつけるべき力が示されている。教芸では、巻頭に1年間で学習することを学習内容ごとにまとめ、見通しを持たせている。

<人権の取扱い>

各社とも、選曲・編曲・歌詞などにおいて人権尊重の観点から配慮されている。「学習のねらい」を、教出では、フォントの大きさや配色を変えて示し、教芸では、同じフォントや色で統一して示すことで、学びやすいよう配慮されている。

<内容の程度>

〔共通事項〕について、「音楽を形づくっている要素」を、教出では各ページの右上に「音楽のもと」として示し、教芸では、各ページの右下に示されている。教出では、学び方を示唆する「まなびナビ」を明示し、題材のねらいに沿って活動できるようになっている。教芸では、キャラクターの問いかけなどにより、学びの内容が示され、題材のねらいに沿って活動できるようになっている。

<組織・配列>

各社とも、学びがつながるよう配置され、題材のはじめのページに題材のねらいが示されている。教出では、全学年で「ショートタイムラーニング」として、英語の歌を取り扱っている。教芸では、3年生以上の学年で、英語の歌を取り扱っている。

<創意工夫>

教出では、全学年に「まなびナビ」が設けられており、学習活動を進めるヒントが示されている。また、写真が折り込みページ等、大きな写真で掲載され、曲のイメージを膨らませる工夫がされている。教芸では、キャラクターの台詞に、学習活動を進めるヒントが示されている。また、教出では、鑑賞領域において児童が聴き取ったことや、感じ取ったことを書きこむメモ欄が設けられ、段階的に言語活動を深めていくよう工夫されており、教芸では、鑑賞・表現の両領域において、児童が聴き取ったことや感じ取ったことを書きこむ欄が設けられ、段階的に言語活動を深めていく工夫がされている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、巻末に、随時振り返りのページを設けている。教出では、学習内容を更に広げる「もっとあそぼう」のコーナーを設け、学習の深まりに対応できるように工夫されている。教芸では、「チャレンジ」のマークで、より進んだ学習活動が明示されており、より発展的な学習活動ができるように工夫されている。

1. 発行者(会社名) 2社
9. 開隆堂 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、他者と関わりながら活動する中で、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。開隆堂では、材料感などを通してイメージや想像を広げ、創造的につくったり、表したりすることができる内容が取り上げられている。日文では、思いに合うような材料や方法で見たり、つくったりできる内容が取り上げられている。

<人権の取扱い>

各社とも、作品例、文章、挿絵、図、資料等において、人権尊重の観点を大切にし、適切に取り扱われている。開隆堂では、「安全マーク」や巻末の「学びの資料」を通して、日文では、「気をつけよう」「かたづけ」や巻末の「使ってみよう材料と用具」で、安全に活動したり、道具を使ったりするための注意事項を示している。

<内容の程度>

各社とも、児童の発達段階に応じて表現活動の内容がバランスよく取り上げられている。開隆堂では、対象の様子を自分の感覚で捉え、表現につながるイメージを持つことができるように、対象の形や色、材質などの特徴を捉え、それぞれの発想で自由に表現する様子が紹介されている。日文では、形や色、奥行きなどをとらえることができるように、様々な感覚を使って材料や用具に触れる題材が設定されている。

<組織・配列>

各社とも、1・2年、3・4年、5・6年で各上下巻の構成になっており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマが設定されている。また、他教科との横断的な学習ができるように配慮されている。開隆堂では、見開き2ページで左上から右下に向かって活動の流れが示されており、完成作品だけでなく作品の展開例や、児童の吹き出し等が配置されている。日文では、児童が興味・関心を持つことができるように、作品が大きく配置され、活動の流れが分かるように始まりから終わりまでの授業の写真が配置されている。

<創意工夫>

各社とも、児童の個性に合わせて、多様な表現ができるように多くの作品が掲載されている。開隆堂では、多様な吹き出しにより、互いを認め、それぞれの発想がいかせるよう工夫されている。日文では、作り方の手順などが掲載され、自信をもって主体的に活動できるように工夫されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、ページによって、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。学習をふり返ったり、深め広げたりするため、開隆堂では、全国各地の伝統文化や工芸について、日文では、平和や防災の観点を持った作品や芸術活動を紹介している。

1. 発行者（会社名） 2社
2. 東書 9. 開隆堂

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、日常生活に必要な基礎的な理解を図り、実習を繰り返し行うことを通して、それらの技能習得のため、発達段階に応じた内容が取り上げられている。東書では、全ての大題材で「1見つめよう」「2計画しよう・実践しよう」「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」で展開し、学び方を示している。開隆堂では、学習の順序を「1見つける・気づく」「2わかる・できる」「3生かす・深める」から構成され、各題材とも「学習のめあて」ではじまり、単元の最後には「ふり返ろう・生かそう」で家庭実践につながられている。

<人権の取扱い>

各社とも、登場する男女の数や役割に偏りが無いよう配慮されており、協力の大切さに気づかせるようになっている。また、安全に実習を進めるため、特設ページを設けるなどの配慮がされるとともに、「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。

<内容の程度>

各社とも、実習や作業がよくわかるよう、写真やイラストで分かりやすく、作品例、挿絵、図表などが豊富で、児童の発達段階に配慮されている。東書では「日本の伝統」や「プロに聞く」のコーナーで、学習に興味をわく内容が取り扱われ、発展学習にもつながるようになっている。開隆堂では、ページ下部の「ひとロメモ」の中で、専門的な用語について、簡潔な表現で解説されている。

<組織・配列>

各社とも、実習の題材は、段階的に発展させて学習できるよう配慮がされ、他教科・他学年の学習内容と関連させて学習できるよう「関連」マークで示している。また、中学校技術・家庭科の「家庭分野」とのつながりも意識している。

<創意工夫>

各社とも、各題材において、「調べよう」「考えよう」「話し合おう」等の表記で課題が示され、実践的・体験的な活動を行うことができるよう工夫されている。東書では、「生活を変えるチャンス」、開隆堂では「レッツトライ生活の課題と実践」が設けられ、学習で身につけたことを生活にいかすことができるようになっている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書では、「Dマーク」で、開隆堂では、「QRコード」で、各社とも学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができ、学習した内容をまとめ、動画などを繰り返し確認できる。また、資料やコラムが記載され、学んだ内容と実生活が結びつくよう配慮されている。

1. 発行者（会社名） 5社
2. 東書 4. 大日本 207. 文教社 208. 光文 224. 学研

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、各単元のはじめに学習の課題を提示し、児童が見通しをもって主体的に学習を進めることができる内容になっており、学習したことを自分のこととして気付かせたり、考えさせたりすることを通し、生活の中で実践できるようにするための活動内容になっている。東書では、各単元に「ステップ1」～「ステップ4」の学習活動が設定されており、身近な生活における課題を見つけ、課題解決に向けて考えたことを表現する活動が取り扱われている。

<人権の取扱い>

各社とも、すべての児童にとって、使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などの配慮がされている。

<内容の程度>

各社とも、キャラクターやイラストを用いて、学習内容に対して説明や解説が取り入れられ、視覚的にも興味・関心を持って学習を進めることができる内容になっている。

<組織・配列>

各社とも、写真・挿絵・図・表などを活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。大日本では、各ページの「ミニちしき」のコーナーで内容を補足している。学研では、各単元が見開きに収められ、学習の流れがつかみやすく構成されている。

<創意工夫>

各社とも、学習の課題や学習手順を明確に示すことで、主体的に学習に取り組めるよう、工夫がされている。東書では、書き込み欄を多く設けている。文教社と光文では、アスリートのメッセージなど、児童の興味関心を引く工夫がされている。

<補足的な学習・発展的な学習>

各社とも、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。また、学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活にいかしたりするための資料やコラムが取り扱われている。

1. 発行者（会社名） 7社

2. 東書 9. 開隆堂 11. 学図 15. 三省堂 17. 教出 38. 光村 61. 啓林館

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取り上げられており、学習した表現を使って活動する内容となっている。三省堂では、実世界の英語や実際の会話を紹介するなど、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取り上げられている。啓林館では、見通しをもって学習ができるようにUnit全体のめあてやPartごとのめあてが明示されている。

<人権の取扱い>

各社とも、フォントや配色にも配慮するなど、すべての児童が学習しやすいようになっており、教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。また、異文化理解などが題材として取り扱われ、生命を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性を育む内容となっている。

<内容の程度>

各社とも、発達段階に応じて興味・関心を持って学習を進められるようになっており、身近なことから世界へ、視野が広がる教材を取り扱い、発達段階に応じて効果的に学習を進めることができる。東書では、単語が別冊の「Picture Dictionary」とリンクしており、既習事項を活用して言語活動ができるようになっている。

<組織・配列>

各社とも、教科横断的な他教科との関連を含め、効果的な授業が行われるようになっている。開隆堂と教出では、聞く活動から入り、基本的なやり取りを行い、発表や発展的なやり取りとともに、「読む・書く」の活動も取り入れることで、児童の意欲を高める構成となっている。また、東書、学図、光村、啓林館では、短時間学習での扱いも例示されている。

<創意工夫>

各社とも、活動の中で児童同士の関わりを意識したペア・グループワークを効果的に取り入れる工夫がされている。東書では、各単元の「Starting Out」で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を繰り返し登場させ、振り返ることができるようになっている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも QR コードやURLが掲載されており、学習に役立つ情報を見ることができ、家庭でも音声教材などを使った学習ができるようになっている。また、中学校への接続を意識した内容になっている。

1. 発行者（会社名） 8社

2. 東書 11. 学図 17. 教出 38. 光村 116. 日文 208. 光文
224. 学研 232. あかつき

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書、教出、光村、日文、光文、あかつきでは、教材冒頭に学習のテーマ等を示すとともに、教材末尾に学習後の行動につながる問いを設定している。学図、学研では、教材冒頭に主題名を明記しないことで、児童が課題意識を持つことができるようになっている。

<人権の取扱い>

各社とも、様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるように配慮されている。また、ユニバーサルデザインの観点から、フォント等にも配慮がされている。

<内容の程度>

各社とも、いじめに関する教材を全学年で取り扱っており、問題解決的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。教出、光村では、各教材の終わりに、問題を解決するための多様な発問が複数用意されている。日文では、「学習の手引き」で、児童同士の話し合いの様子や、役割演技の様子を例示している。光文では、教材中に様々な視点での投げかけがあり、子どもの思考を促す工夫をしている。学研では、「深めよう・つなげよう・やってみよう・広げよう」の四つの観点を提示し、学習の道筋を示している。

<組織・配列>

各社とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。光村では、1つの学年を3つのまとまりに分け、重点化を図っている。日文、あかつきでは、別冊「道徳ノート」を、学図では、分冊「まなび」を読み物教材と関連付け、「書く活動」を重視し、構成している。

<創意工夫>

各社とも、自らの成長を実感できるよう工夫されている。東書、日文、光文では、授業時間数より多くの読み物教材を「付録」とし、児童の実態に応じて補充的な学習ができるように工夫されている。東書、光村、学研では、インターネットに接続し、動画・音声教材を活用した学習ができるようになっている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書では、学習したことを、生活や郷土とのつながりを関連させることができるような資料を掲載している。光村、光文、学研では、道徳の学びを他教科や日常生活につなげるためのヒントを示している。